

教科目標

- (1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。
- (2) 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。
- (4) 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。

1 学期 主な学習内容（4 8 時間）	2 学期 主な学習内容（5 6 時間）	3 学期 主な学習内容（3 6 時間）
1 オリエンテーション 2 1 章正の数・負の数 （単元のまとめテスト） 3 習熟度別コース分け実施 4 2 章文字の式（単元のまとめテスト）	1 夏休み明けテストの実施 2 3 章方程式（単元のまとめテスト） 3 4 章変化と対応（単元のまとめテスト） 4 5 章平面図形（単元のまとめテスト）	1 冬休み明けテストの実施 2 6 章空間図形（単元のまとめテスト） 3 7 章データの活用 （単元のまとめテスト）

評価の観点と規準（各観点の割合は、全て達成率 100%で統一する。）

	評価の観点（1 学期より抜粋）	評価の方法・資料	評価方法の基準と「概ね B 評価」等の設定（行動目標）
I 知識・技能	〈例〉 ・正の数・負の数の加法、減法の計算ができる ・正の数・負の数の加法、減法の計算や加法の交換法則、結合法則について理解することができる。	[全教科共通] ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・全 7 回単元テスト ・夏休み明けテスト ・冬休み明けテスト ・50 問テスト	・テストでの観点 I の問題を 5 0 %程度の正答率で解答することができる。 ・定期テスト・小テスト・休み明けテストで、知識・技能の観点における点数が 8 0 %以上で A、5 0 %以上 8 0 %未満で B、5 0 %未満で C としている。
II 思考・判断・表現	〈例〉 ・数直線をもとに加法の計算のしかたを考えたり、加法の計算に帰着させて、減法の計算のしかたを考えたりすることができる。 ・正の数・負の数を具体的な場面で活用することができる。	[全教科共通] ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・全 7 回単元テスト ・定期テストの解きなおしプリント ・振り返りシート	・テストでの観点 II の問題を 5 0 %程度の正答率で解答することができる。 ・定期テストを解きなおしたプリントに記述した内容で評価する。 〈記述例〉 ・計算問題では、間違えた途中式を赤で直し、次に間違えないために正しい計算方法やポイントを記入している。 ・ただ解きなおすだけでなく、「なぜそうなるのか考え方まで記述できている」、「自分なりに問題について考察できる」ものについては、思考、判断、表現の観点に加点する。
III 主体的に学習に取り組む態度	〈例〉 ・身のまわりの数から、0 より小さい数を見いだそうとしている。 ・正の数・負の数の加法、減法の計算をしようと取り組むことができる。	[全教科共通] ・「知識及び技能」の観点の評価 ・「思考力・判断力・表現力等」の観点の評価 【各教科の方法・資料】 ・リピート学習 ・定期テストの解きなおしプリント ・週末課題 ・振り返りシート ・定期テスト ・全 7 回単元テスト	・リピートや週末課題に取り組み、定期考査や単元のテストで身に付けたことを 5 0 %程度の正答率で解答することができている。 【各教科 独自の方法】 ・振り返りシートは点数化し、評価する。 ・学習内容を生かして数学的に考察、記述している。 A 社会や身の回りとの関係を深く考察している B 学習内容について学校生活等の身近なものについて考察している C とりあえず記述している、役に立つかわかっていない ・提出物（リピート学習、解きなおしプリント）は、A、B、C で評価する。 A 途中式や計算方法が丁寧に記述されており、丸付けをしている。また、間違えた問題を赤で解き直す・解説が書かれている B 途中式や計算方法を記述し、丸付けをしている C 空欄が多数ある